

松山 亮校閱  
佐々木米三郎編述

版權所有

# 和歌山縣管内地誌略全

明治廿一年 六月新刻 平井書房梓

特31

## 和歌山縣管内地誌略凡例

- 一 本書ノ資料ハ主トシテ紀伊國ノ地誌ニ関スル諸書ヲ引用シ尚且各郡區役所ニ質シテ之ヲ記述シタルモノアリ
- 一 本書全縣地形ノ大要ヲ卷首ニ録シ各郡區記事ノ末節ニ其概説ヲ附記シ更ニ一節ヲ卷尾ニ附シテ全部ノ総括トナス是レ前後相應シテ記臆シ易カラシメンカ為ナリ
- 一 人口及町村數等ハ最近ノ調査ニ據リテ之ヲ録スト雖氏人口ハ時々變動アルヲ以テ唯其概數ヲ擧クルノミ
- 一 全縣ノ地圖ハ之ヲ卷末ニ附シテ展覽ニ便スト雖氏和



和歌山縣管内地誌略凡例

一本書ノ資料ハ主トシテ紀伊國ノ地誌ニ關スル諸書ヲ引用シ尚且各郡區役所ニ質シテ之ヲ記述シタルモノアリ

一本書全縣地形ノ大要ヲ卷首ニ録シ各郡區記事ノ末節

ニ其概説ヲ附記シ更ニ一節ヲ卷尾ニ附シテ全部ノ總

括トナス是レ前後相應シテ記憶シ易カラシメンカ為ナリ

一人口及町村數等ハ最近ノ調査ニ據リテ之ヲ録スト雖

凡人口ハ時々變動アルヲ以テ唯其概數ヲ擧クルノミ

一全縣ノ地圖ハ之ヲ卷末ニ附シテ展覽ニ便スト雖凡和

和歌山縣管内地誌略



歌山區ハ本縣縣治ノ在ル所ニシテ特ニ一區域ヲナス  
 ラ以テ別ニ其略圖ヲ載ス  
 一地圖ニ記入スル所ノ村浦名及山川等ハ概テ本書中ニ  
 記載シタルモノヲ録シ其他ハ省略ニ從フ是レ地圖ト  
 本文トヲ對照シテ了解シ易カラント欲スレバナリ  
 一本書ノ目的ハ小學兒童ヲシテ本縣地理ノ概要ヲ知ラ  
 シメント欲スルニ在リ故ニ其行文ハカメテ平易ヲ旨  
 トシ無用ノ文飾ヲ省キタルヲ以テ文体自ラ雅致ヲ欠  
 ク所アリ是レ事實ヲ理解セシメント主トスレバナリ

明治二十一年六月

編者識

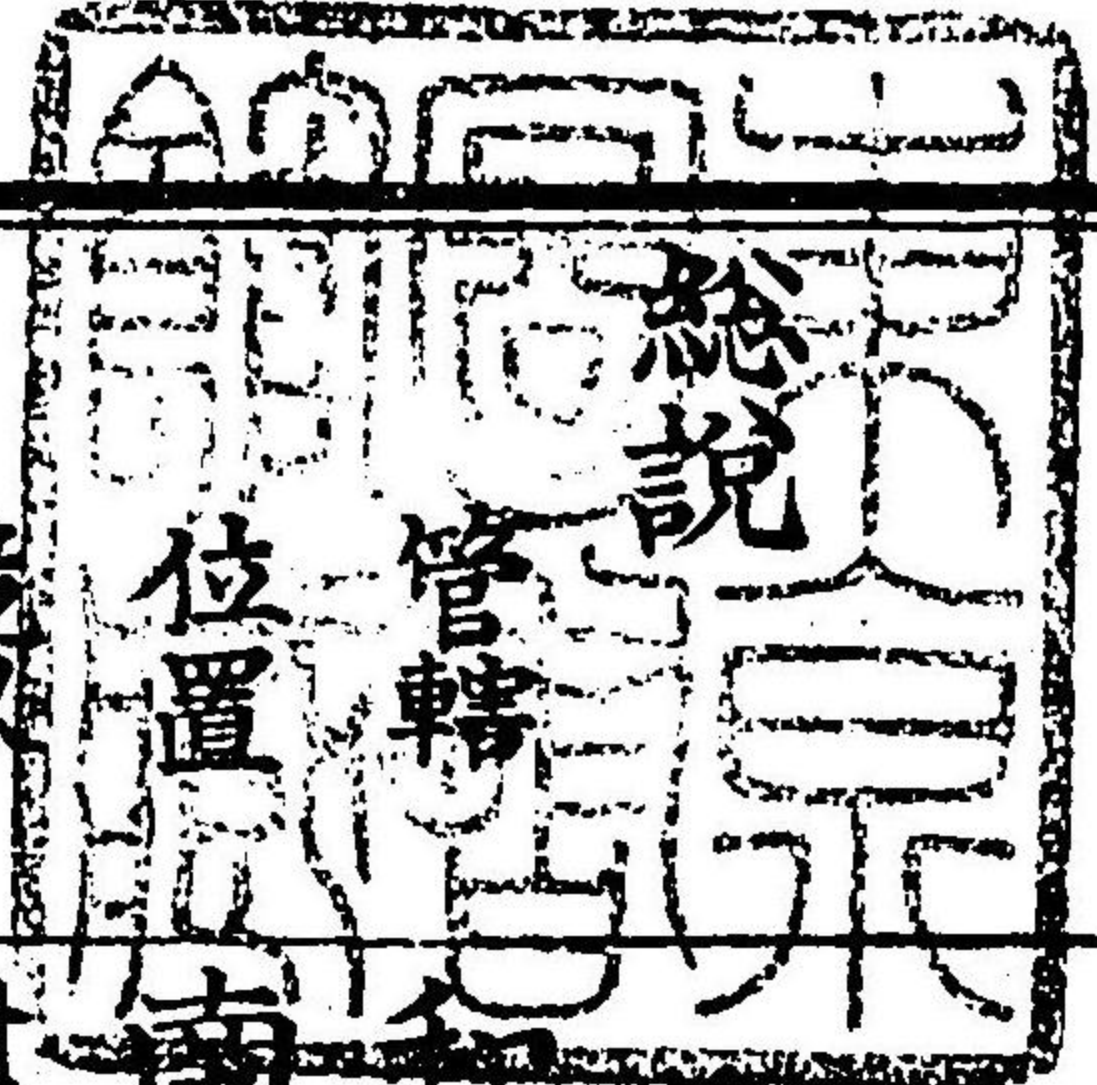
和歌山縣管内地誌略

松山亮校

佐々木米三郎編述

總說

和歌山縣ハ紀伊國ノ大部分を管轄ス。紀伊國ハ、  
 南海道ノ一州にして畿内ノ南に在リ。其境界北  
 ハ和泉河内ノ二國に隣リ、大和ノ南を繞りて東  
 ハ伊勢に接シ、東南ハ大洋に向ヒ、西ハ内海を隔  
 テ、淡路嶋及ヒ阿波土佐ノ二國と相對シ。縣ノ  
 廣袤ハ東西凡二十三里、南北凡二十四里あり。





地理區分 縣内の區分を一區八郡と云、其東北部に在りて、大和に隣れるを伊都郡と云、西に在るを那賀郡と云、西を名草郡と云、名草の西にありて海濱に瀕するを海部郡と云、此四郡小隣接して南に横たるを有田郡と云、有田の南を日高郡と云、日高の東南を西牟婁郡と云、西牟婁の東を東牟婁郡と云、和歌山區は、名草海部二郡の間に跨る市街の地小して、明治十二年郡區編制の時、此區分を為せり。東牟婁郡の東北に延長して、南北牟婁の二郡も

り、三重縣の管轄に属し、和歌山縣内の各郡と共に、紀伊國の全體を成す。

第一 和歌山區

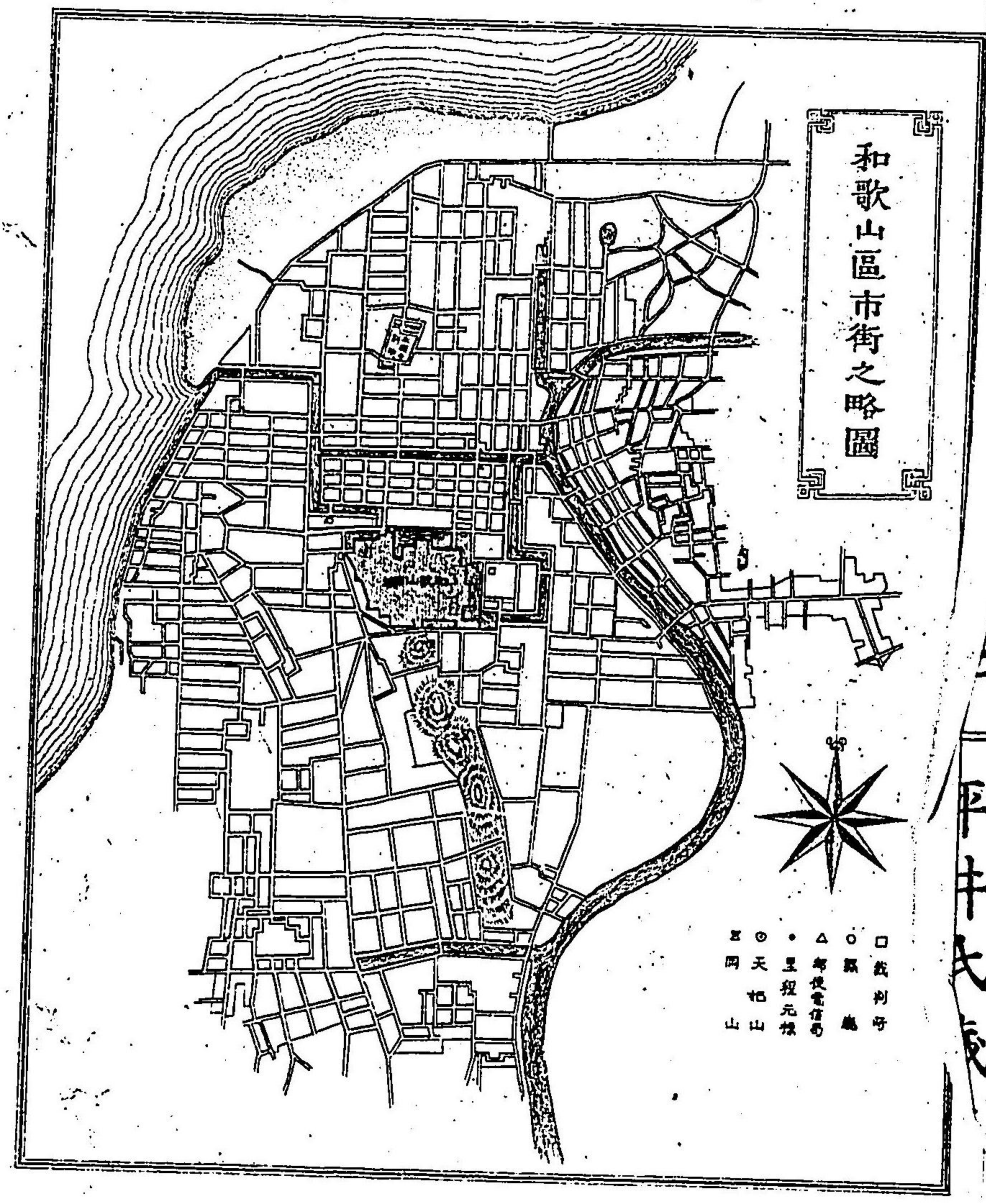
和歌山區

位置  
幅員  
人口

和歌山區は、名草海部二郡の間に跨る市街にして、縣内最も戸口稠密の都邑と云、其幅員東西凡二十町、南北凡二十八町、市街の數四百町にして、人口凡四萬七千は餘れり。和歌山縣廳、和歌山始審裁判所及び治安裁判所等、皆此區内に在り。市街の中央に在りて、土地少く隆起したる處

和歌山縣

平井氏



和歌山區市街之略圖



和歌山城

を虎卧山と云ふ、則ち和歌山城の在る所に、濠池其東北を繞ら、天守閣を猶不存にして、白聖翠松の間に隱映し、最も区内の壯觀あり。此城は天正年間、羽柴秀長の此國を領せし時、部將桑山重晴之を築造し、其後舊藩祖徳川頼宣の此に



區分稱

封せられし時、更に修繕を加へたる所に、現今は陸軍の所轄に属するあり、然れども廢藩以來、外圍を取拂ひて市街とふし、今亦昔日の觀にあらざり。和歌山縣尋常中學校は此内に在り。和歌山區の市街を大別し、普通の名稱を以て之れを指定せられ、城の東北にありて、舊外郭の地を番町と云ひ、番町の東を廣瀬と云ひ、北を内町と云ひ、城西を湊と云ひ、城南を吹上と云ひ、廣瀬の東北を新町と云ひ、内町の西を宇治と云ひ、内町と、区内最も繁華の地に、戸口密接し、商賈



樞要の處あり。

河流

京橋

市街

區の中心を開鑿して西北紀の川と通し、東南雜賀川に流る、河あり、以て水運の便をふり、數多の橋梁あり。其和歌山城の北小架するを京橋と云ふ、里程元標の樹つ所にして縣内の道程皆此より起算す。京橋の北を本町と云ふ、内町部内に在りて、特に繁盛の地なり、橋の南は、則ち番町にして、一番町より十三番町に至る。和歌山郵便電信局、和歌山警察署、及び國立銀行等、此にあり。本町の西に本願寺別院あり、鷲の森御坊と稱す。

本願寺別院

堂宇宏壯にして、亦區内の一壯觀あり、天正年間、真宗の僧徒織田信長に抗し拒戦せし所ありと云ふ。

天妃山

岡山

社寺

和歌山城の南に、一座の高丘あり、岩石重疊して、形狀最も佳あり、之を天妃山と云ふ、紀念碑其巔に屹立して、殉國の忠魂を表す。山西の小丘を岡山と云ふ、此丘も、毫も岩石を見せ、盡く細砂を以て成る。和歌山縣尋常師範學校此にあり。

天妃山の麓に松生院あり、有名の古刹とて縣社、刺田比古神社と、其西南に對して岡山の丘麓に

和歌山縣管内地誌各

和歌山縣志



市場

在り、区内第一の神祠と也。  
公許市場も、本町の西に在り、毎朝魚類蔬菜の競  
賣を爲し、頗る雜鬧を極む。新町部の東田中町に  
も、亦蔬菜の市場あり。

生業

区内人民の生業も、商工を以て主とし、故に縣内  
各部に於る需用の器材什物も、概ね供給を此地  
に仰りざるをふし、産物の最も主要なるものは、  
綿フラン子ルよして、製造所頗る多く、各地より輸  
出して、大に好評を得たり。其他雲齋、足袋、韋皮、鬚  
附油及ひ傘の如きも、亦著名なるものよして、酢

産物

概説

漬魚、奈良漬、橘類の砂糖漬等も、世人の常に賞賛  
せる所あり。

和歌山區を名草海部二郡の間に在りて、西北  
紀の川に瀕し、其分水堀河に流れて、市内を疏  
通し、戸口稠密、商工繁盛にして、縣内第一の都  
邑あり、凡そ日用の物品、一として此に産せさ  
るものあり、就中綿フラン子ルを以て、第一の  
産物と也、縣廳裁判所、尋常師範學校、尋常中學  
校、郵便電信局、國立銀行等皆此に在り。



名草郡

第二 名草郡

位置

名草郡は縣の西北部に位し、北は葛城山脈を以て和泉國日根郡に界し、東は那賀郡に隣し、南は

境界

有田海部の二郡に連り、西は海部郡及び海濱に接して和歌山區を擁し、地勢平坦、田野膏腴あり、

村浦數

全郡村浦の數一百四十八にして、人口七萬九千餘あり。

河流

紀の川郡の北部を流れ、灌溉運輸兩方うら便あり。雜賀川も紀の川の岐流にして和歌山區の堀河と通し、名草山の西麓を南下して海に入る、其

山岳

他許多の支水あり、郡内に流通す。

雄の山は葛城山脈の内にあり、阪路甚だ險からむ、本縣より大阪に到るの官道あり、雄の山の西に雲山峯あり、又兩の森と稱す、葛城連峯中、最高峰の一にして、近海渡航の指針とふる。最初う峯と礫う峯とを、紀の川の南に在り、本郡の東部に亘りて、那賀郡との境界を成む。藤白嶺は郡の南境に在り、阪路頗る峻し、舊時熊野に赴くの官道ありしう、近來山麓を回りて、別に新道を開けり。名草山は郡の西南に在り、郡中に特立して、山脈



橋梁 渡津

他に通せざるを以て、此名を得たり。  
紀の川は郡を南北の二部に分ち、數個の橋梁及  
ひ渡津を以て路を通じ、其最西ふるも北島橋に  
して長さ三町に餘れり、其東を福嶋の渡津とし、  
又其東に宇治橋、菌部渡及ひ直川橋あり、尚其東  
に架ざるを、田井の瀬橋と云ふ則ち大阪街道に  
當れり。

境橋

田井の瀬橋の東北、凡一里にして里村あり、山口  
驛と云ふ、其北方雄の山を隔て、一小村あり、瀧  
畑村と云ふ、小橋あり、溪流に架せ、之れを境橋と

鳴瀧

稱せ、則ち大阪街道に在りて、和泉紀伊の境界を  
ふり。

大同寺

菌部渡の北を菌部村とせ、勝地あり、鳴瀧と云ふ、  
奇岩怪石の間に楓樹多く、秋後霜に染む時、遊  
賞の士女群をふせり。菌部の東を六十谷村と云  
ふ、大同寺の古刹、此村に在り。六十谷の東に直川  
村あり、其東を府中と云ふ、中世國府を置られた  
る所にして、山口驛の正西に當れり。

紀の川の南に、宮堰川の支流あり、那賀郡より分  
流して和歌山に入る、此川の南方に在りて、殆ど



秋月村

本郡の中央に位する地を、秋月村と云ふ、名草海部郡役所及び秋月警察署所在の地あり。官幣大社日前國懸兩神宮も、亦此村に在り、境内頗る廣潤あり。

山東莊

秋月村の東南二里を隔て、山東の莊あり、十五村の總稱と云、國幣中社

竈山神社圖



竈山

伊太祈曾神社も、其中部ある伊太祈曾村に在り、竈山の丘陵も、伊太祈曾の西方、殆ど一里を隔てたる、和田村の野外に在り、神武天皇の皇兄彦五瀬命を葬る所あり、明治十八年、兆域を改修して、國幣中社に列せられ、竈山神社と稱せ。

三井寺

名草山は、竈山の西南に在り、其山腹に立ちたる古刹を紀三井寺と云ふ、此地和歌山の正南、殆ど一里半に在り、西和歌の浦と相對せ、其山麓、紀三井寺村、三葛村あり、其東南一里餘に、黒江、日方の兩邑あり、内海に落ぬる小市にして、熊野

黒江日方



街道の一驛とす。日方の南を名高と云ふ、名高の南に藤白山あり、本郡と海部郡との境界をふせり。

産物 概説

郡中、和歌山區に接近せる諸村、及び黒江、日方等と、人家軒を並へて、商工の業盛あり、殊に黒江の漆器は、製作良好にして、遠く名聲を博し、本郡第一の産物とす。其他日方の傘、三葛の食塩、山東の松茸、松江布引の西瓜は、著名の特産物にして、穀物、木綿、菜種は、到る處産せざるの地あり。名草郡は、縣の西北部にあり、海部郡と共に和

歌山區を圍擁す。紀の川其北部を流れ、運輸灌漑の便を得たり。土地平坦、田野沃腴にして、農業盛に行はる。其特産物は、黒江の漆器を以て第一とす。郡役所及び警察署は、秋月村に在り。名草、海部二郡を管轄す。日前國懸兩神宮、伊太祈曾神社、竈山神社は、郡内の大社にして、紀三井寺、大同寺は、有名の古刹あり。

第三 海部郡

海部郡

海部郡と亦縣の西北部にして、名草郡の西に位



位置

南北に長く東西に短く、地勢海濱に落めるを以て此名あり。名草郡の一端及び和歌の海灣を以て、北中、南の三部に分れ、中の一部を亦紀の川を挟みて二小段とある。全郡村浦の數四十八にして、人口四萬一千餘あり。

村浦數  
人口

北の部

第一、北の一部を葛城の連峰北を限りて、和泉國日根郡に界し、東を名草郡に接し、西南の二面は海に瀕し、友ヶ嶋海心に立ちて、淡路嶋と相對し、茅渚の海の南を扼せり。加太浦も此部中最も人口稠密ある村落にして、四國來往の要津たり、古

加太浦

祠あり、淡嶋神社と云ふ。

加太山は、加太浦より東南磯脇村に至るの間に在り、其海面に突出せる所を飽浦岬と云ふ。北城岬と相對して、加太の灣を扼也。

木本村

加太の東北に位して、名草郡と相接せる所を木本村と云ふ。八幡神社此に在り、應神天皇頓宮の遺趾にして、亦有名の一社あり。

友ヶ嶋

友ヶ嶋又苦ヶ嶋と云ふ、分れて二嶋とある。陸地に近きを地の嶋と云ふ、其遠きを沖の嶋と云ふ。周回各二里許にして、斷崖絶壁、真に奇觀あり、兩



嶋俱に人家なく、只沖の嶋に燈臺あり、第三等不動白色の點火あり。又近時、炮臺建築の議ありと云ふ。沖の嶋に接近したる二個の小島を、遠嶋神嶋と名く、共に其附屬嶋あり。地の嶋と加太浦との間を、加太の海峡と云ふ、此間船舶常に來往す。

中二部

雄港

第二中の一部を、東北和歌山區及び名草郡に接し、西南海に枕めり。紀の川本部の西北を貫流し、雄の港を、紀の川の末流に在りて和歌山區に接し、縣内第一の港あり、港内水淺くして、大船を繫

和歌浦

泊せるに足らざると雖とも、近國の商船茲に來往せるもの少からし。和歌山區の西南に接する所を、淡村及び今福村と云ふ。今福村の南に關戸村あり、其南を和歌村と云ふ。和歌の浦も此地に在り、一に明光浦と云ふ、其風光頗る明媚にして、實に海内の一勝地あり。海邊の丘上に東照神社あり、社殿壯麗、丹碧相映、其麓に南龍神社あり、構造清楚、境内幽雅あり、此二社も俱に縣社に列す。其東に玉津嶋の社あり、是れ亦有名の古祠ありとす。



雜賀崎

和歌浦の西方に當りて海中に突出したる岬を、雜賀崎と云ふ、又其西方に二三の嶋嶼あり、最も大なるを大嶋と云ひ之に次くを中嶋と云ひ、最も小なる二嶋を合せて双子嶋と云ふ。第三南の一部を東北名草郡に接し、南有田郡に

南之部



和歌浦の圖

加茂谷

隣り、西北海に面す。其名草郡の境に、藤白の山脈あり、有田郡の境に、長峰の山脈あり、此兩山脈の中間に位する處を、加茂谷と稱す。藤白の山脈、西方に走りて、海面に突出せる所を、荒崎と云ふ。南下津浦を隔て、椒濱浦に對す。其西南の海心に、浦の初島あり、亦沖の嶋地の嶋に分れ、其他の小嶋頗る多しとす。

浦初島

塩津浦

藤白山脈の西部に當り、北和歌浦に對して、一小港を成す所を、鹽津浦と云ふ。近時常に和歌山より客船を通せり。其西方に、大崎あり、船舶を繫泊す。



長保寺

る良浦あり。塩津の南に小南村あり、多く梅樹を栽培す。上村も小南の南に在り、古刹あり、長保寺と稱す。舊藩主徳川家累代墓のある所にして、北域頗る宏壯あり。

産物

海部郡も海邊に散在するを以て、人民多くは漁獵を業とし、多く海産物を出せ、和歌浦の海苔及び牡蠣、加太の裙帶菜、雜賀崎の鯛も、其殊に著名なるものにして、其他海參、鹿角菜の類に富み、内部も農業を務め、果樹を培養するを以て、穀物橘類亦多く産出せ。

概説

海部郡も、名草郡の西に在り、地勢三段に分れ、海邊に散在す、雄の港及び加太浦、塩津浦、大崎浦等も、泊舟の良地にして、和歌浦は勝地を以て名あり、人民多くは、漁獵を業とし、内部も農業を力む、産物も、魚類、海藻及び橘類を以て主とす、東照、南龍、淡嶋、八幡の諸社も、有名の神祠にして、紀三井寺、長保寺も、古刹を以て名を知らる。

那賀郡

第四 那賀郡



位置

境界

村數

人口

那賀郡は縣の北部に位し、名草郡の東に在り、北は葛城の連峯を以て、和泉國泉南日根の二郡に界し、東は伊都郡に接し、南は有田郡に隣せ、全郡二百五十一村にして、人口殆ど八萬二千あり。紀の川の中央を貫通して、地勢を南北の二部に分ち、大に灌漑の利を得て、田圃最も肥沃あり。野上川は伊都郡に發し、郡の南部を西流し、西南隅より折れて北流し、遂に紀の川に合せ、其他根來川、粉川、春日川、名手川等あり、皆紀の川に注入せ。

地勢

山岳

岩手驛

紀の川の北部も、土地平坦、田野廣潤ありと雖も、南部に在ては、群巒起伏し、村落多くは溪谷の間、に在り、郡の中央に突起せる高山を、龍門山と云ふ、山形富士山に類せるを以て、紀州富士と稱し、又其半腹に勝神村あるを以て、勝神山の名あり。飯盛麻生津の諸山、其東に延亘し、高野山と相連る。郡の極南には、長峯の山脈あり、以て有田郡の境界をなす。

清水村は、大和街道の一驛にして、岩出驛と稱せ、那賀郡役所及び岩手警察署所在の地にして、和



粉河村

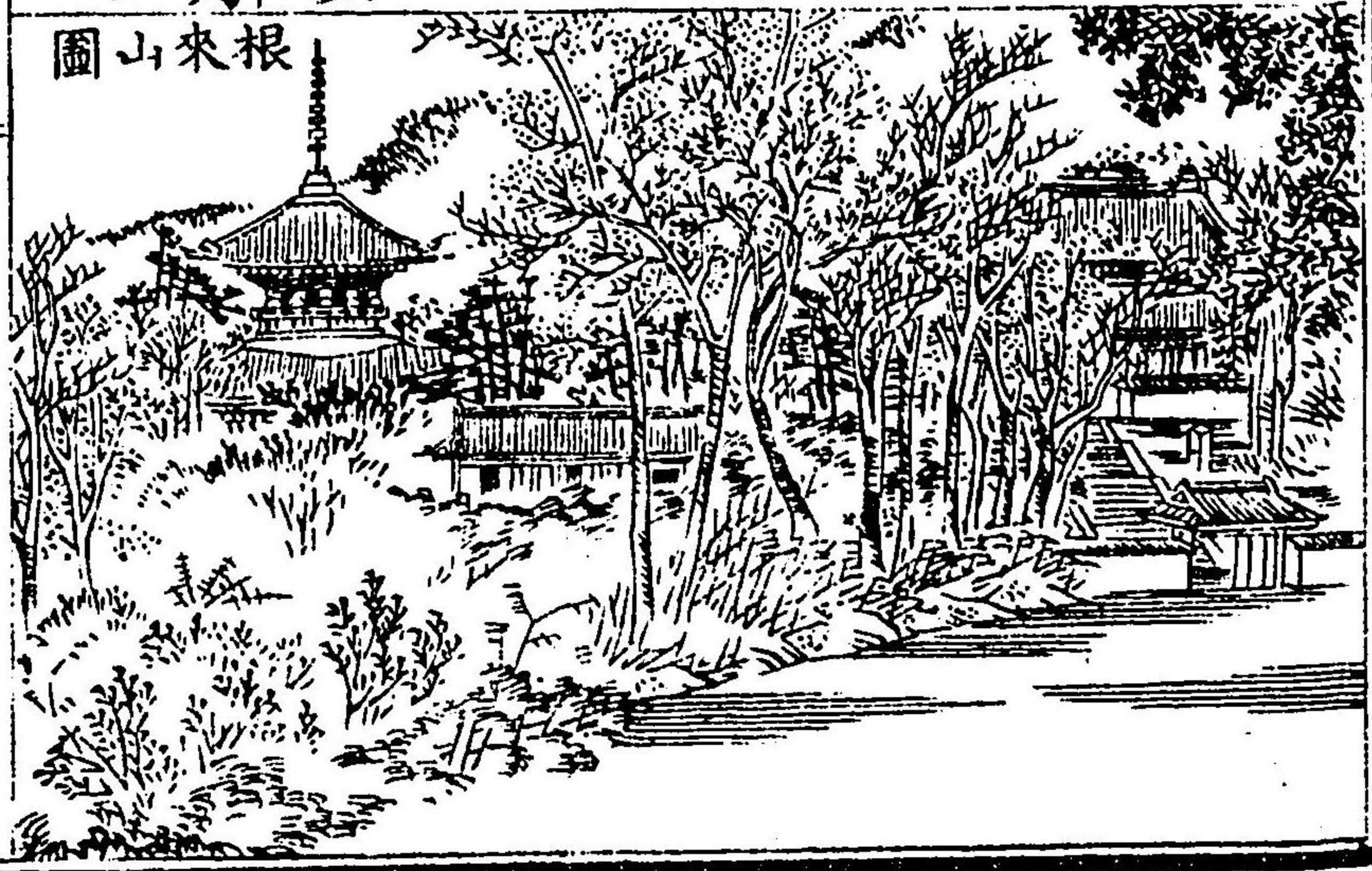
歌山を距ること、殆ど四里に在り。此驛の正東殆と二里に粉河村あり、郡中第一の大村よして一  
小市街をふく、人民商工を以て生活を、酢、蒟蒻、團扇等の産物あり、粉河寺は此地の古刹にして、其名遠く世に知らる。

名手驛  
麻生津

粉河の東に名手驛あり、亦大和街道の一驛と也。名手の南方、紀の川を隔て、一村落あり、麻生津と云ふ、龍門山の東方、麻生津峠の北麓に位し、高野山に通ずる驛路に當れり。  
西阪本村は岩手驛の西北殆と一里にして、根來

根來山

山其北に在り、此山にある巨刹を根來寺と云ふ、境内曠濶にして、櫻樹多く、風致頗る佳なり、堂塔伽藍舊時の觀ありと雖とも、猶不存して觀るべきものあり、新義真言の本山にして、往昔は許多の領地あり、羽柴秀吉と戦ひ、一敗の後盡く





押領せられたり、此地和歌山を距ること、大約四里に在り。

境谷村

根來の西に境谷村あり、紀泉兩國の境界にして、鑛泉涌出、近時浴場の設けり。

野上

郡の西南部を野上と云ふ、野上川其中央を流通し、大に運輸灌漑の便をふせり。勳木村は此部中の大村にして、龍神街道の一驛たり、神野、毛原は其東に在り、共に此街道に當る。

貴志

野上の北を貴志と云ふ、貴志の東北を荒川と云ふ、龍門山の西麓に在り、貴志の井口、荒川の市場

荒川

は、俱に其部内の大村あり。

産物

郡中の著名なる産物は、粉河の酢、菟蓐、團扇、野上の棕櫚、神野の紙、貴志の木綿、及び紀の川の年魚等あり、就中木綿は古來川上木綿の稱を得て、大に世に賞用せらる。

概説

那賀郡は、縣の北部、名草郡の東方に在り、紀の川其中央を貫通し、其北は地勢平坦にして、其南は山岳起伏せり、田野肥沃にして、農業盛に行わる、其産物は、川上木綿を以て最とせ、郡役所及び警察署は清水村にあり、根來粉河に有



和歌山縣管内地誌 第五 伊都郡

名の古刹あり。

伊都郡

第五 伊都郡

位置 伊都郡も、縣の東北部にして、那賀郡の東に在り、北も葛城の連峯を以て、河内國錦部、石川の二郡と、和泉國泉南郡とに界し、東は大和國宇智、吉野の二郡に聯り、南は有田郡に接し、全郡一百四十九村にして、人口五萬九千餘あり。

河流 紀の川大和より來りて、郡の中央を貫き、蜿蜒屈曲して流通し、其間小流の谿谷より出て、之れ

地勢 に會せるもの多し、其最も大なるも丹生川にして、源を郡の東南隅より發し、三尾川古澤川等を合せ、郡の中央に於て、紀の川に合せ、又友淵川と湯川とも、那賀郡に流れて野上川に入り、五里谷川も、有田郡に流れて、有田川の水源とある。

山岳 本郡も亦、紀の川を以て南北の二部に分つ、川の沿岸は、地平にして土肥へ、村落川に臨みて、碁布きと雖とも、漸く南北に距るに隨ひ、土地隆起し、山岳重疊を、紀伊見峠は、河内より本郡高野山に通ざるの街道に當り、三國峠も、本郡と河内和

和歌山縣管内地誌 第五 伊都郡



泉二國との境に在り。三國の西に父鬼峠あり、又七越峠と云ふ、則ち郡の西北隅にして、共に葛城連峯の脈中に立てり、又大和の境に待乳七霞等の諸山あり、那賀の境に妹山背山等あり。妙寺村も紀の川の北岸に在り、大和街道の驛路に當る、和歌山を距ること殆と八里半、伊都郡役所所在の地あり。其正東二里半に橋本村あり、橋本警察署を置かる、共に河北の大村と云。細川霜草山内の諸村は、橋本の東北に在り、大和に接する處にして、烟草の産地を以て世に名あり。

妙寺村

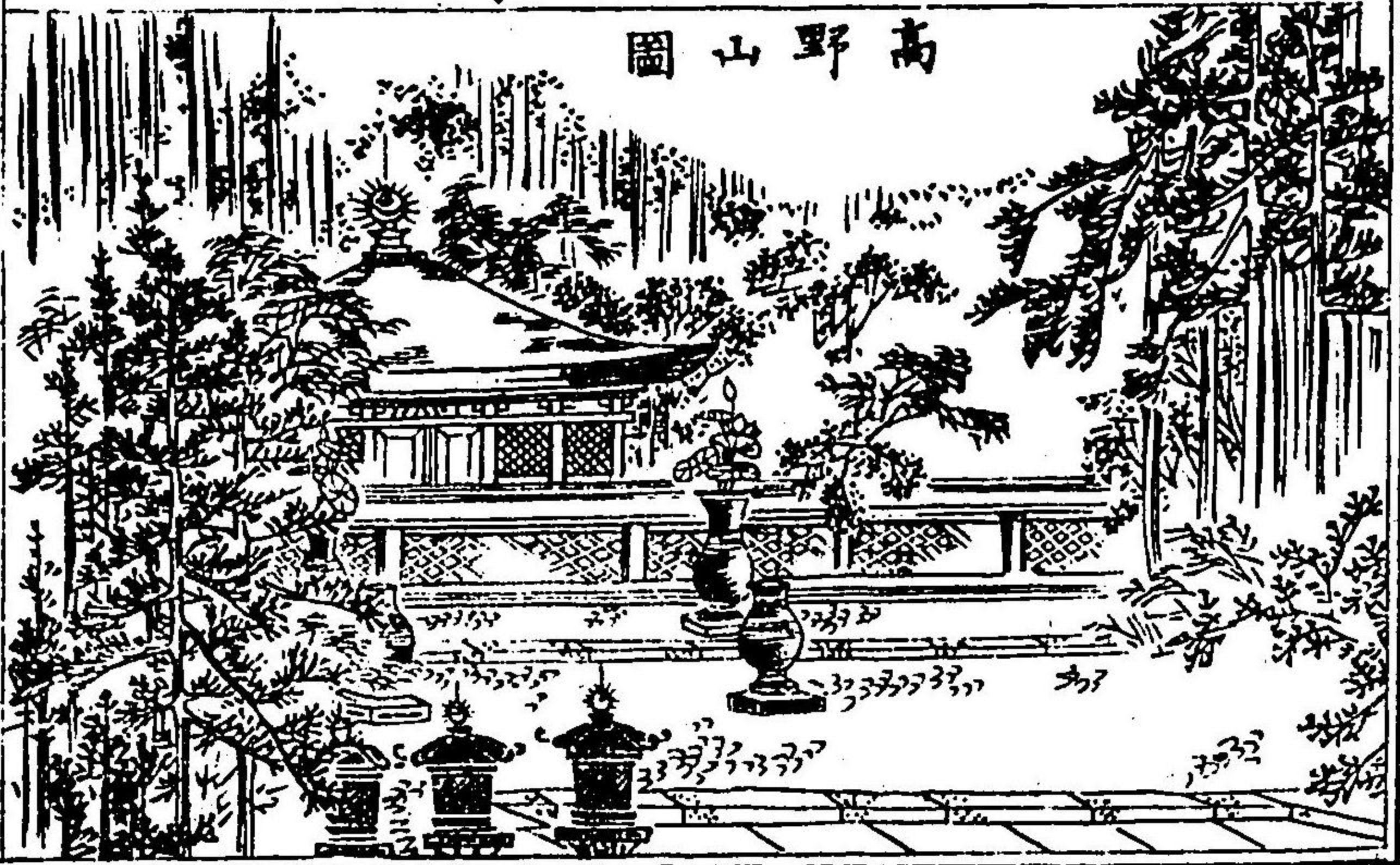
橋本村

川の南部に在りて、橋本に對する地を學文路村と云ふ、高野街道の一驛あり。其西を九度山村と云ふ、是亦河南の一大村あり。

高野山圖

高野山

高野山も、殆と南部の中央に在り、群山四面を擁して、山頂に曠原を成せ、堂塔輪奐、僧坊門を連ね、





結構極めて壯麗あり。一巨刹あり、金剛峯寺と云ふ、弘仁年間、僧空海始めて錫を此地に止めて、開基せる所にして、真言宗の本寺たり、山中勝景頗る多く、淨地の名遠近に聞ゆ。奥の院を則ち空海入定の地ふして、信徒の賽詣絶ゆることあり。高野山の西麓に、花阪村あり、高野街道の一驛あり。

縣社丹生津比賣神社と天野村に在り、郡中屈指の舊祠とす。

産物

郡中の著名ふる産物も、霜草村の烟草、高野山の

木材及び氷豆腐等にして、最も世人の賞揚せる所あり、其他木綿、総絲も、那賀郡と同じく其名を博し、清酒も廣く好評を得たり、又紀の川に、年魚及び鱒を産し、山間の諸村には、鑛物、木炭、椶櫚、檜繩の類を出す。

概説

伊都郡も、那賀郡の東に在り、大和に隣り、紀の川、其中央を蜿蜒流し、村落沿岸に基布き、郡の南北も、山岳起伏して平地多からず、郡役所は妙寺村に在り、警察署は橋本村に在り、高野山を淨域を以て、其名全國に知らる、霜草村の烟草







河流

有田川も水源を伊都郡の五里谷川に發し、郡の東北隅に入り、西に向ふて全郡を貫通し、北溪村に至りて海に朝せ、其間數多の支流あり、大に灌漑の便を得るを以て、美地沃壤亦少からず。

湯淺村

郡の西方を海に面して、廣の海灣を含み、鷹嶋川、藻嶋、其中間に散在す。其灣頭を湯淺村と云ふ。有田郡役所及び湯淺警察署所在の地にして、郡中第一の名邑たり。東西十町、南北五町、市坊頗る繁華にして、最も水陸運輸の便を得たり。此地和歌山を距ること、殆ど十里にして、熊野街道の一驛たり。

たり

廣村

湯淺の南を廣村と云ふ、戸口蕃殖して、郡中の一

千田村

大村たり。千田村も湯淺の西北、有田川の南岸に

宮崎

在り、縣社須佐神社所在の地あり。宮崎も其西方にありて、海中に突出せること七町に餘り、巉岸

箕嶋村

突元、廣灣の海門をおさむ。箕嶋村も千田の西北、有

北溪村

田川の北岸にある一大村あり。其西に隣接せるを北溪村と云ふ。則ち有田川の海口を擁し、一小港をおさむ。此地は郡内の産物を輸出せる處ふて、蜜柑の如きも、亦此港より船舶に搭載せ。



湯淺の東北有田川の南岸に沿ふて平地あり、之れを藤並の莊と云ふ、石垣の莊其東に在りて、川の南北に跨る、金屋徳田も石垣中の大村にして湯淺の東北殆と二里に在り、有田川を隔て、相對し、徳田村の大衆寺は有名の古刹あり

次ノ瀧  
 金屋村の東北、延阪村の山中に瀑布あり、高さ三十七丈に餘り、奇石怪岩左右に駢列し、眺望最も佳あり、之れを次の瀧と云ふ、其壯觀那智の瀧に次くを以て、此名を得たり。

石垣の東より、郡の東端に至るの間を稱して保

田と云ふ、所謂山の保田にして、生石、白馬諸山の間に在り、群巒起伏して、地高く土瘠せ、耕作に適せざるを以て、居民多く、茶紙を製出して産業とあり、近時三種の培養甚だ盛あり。

郡中第一の産物を蜜柑と云、有田川の兩岸、山を



蜜柑の圖



概説

墾して層とあり、地として之を培栽せざるを  
 天正年間初めて肥後より移植せる所にして、  
 古來都人の聲價を博し、毎歳産出の量頗る多く、  
 實に郡中の富源あり、其他湯淺の醬油、箕嶋の蠟、  
 燭、田村の枇杷、保田の茶紙、郡中産物の著名ある  
 ものに、木炭、檀、寶、蜂蜜、金柑の類も各地に  
 産出し、沿海の地は漁業盛に行むる。  
 有田郡を縣の中部に在り、伊都郡、賀名草、海部  
 四郡の南に横たり、有田川郡中を貫通し、三面  
 山を帯ひて、西を海に瀕む、郡役所警察署を湯

淺村に在り、土地概ね膏腴なれども、東部も高  
 山峻嶺の間に挟まりて、耕作に適せず、蜜柑を  
 本郡第一の産物にして、郡中の富源たり、沿海  
 の地は漁業盛に行むる。

日高郡

第七 日高郡

位置

境界

村浦數

人口

日高郡も亦縣の中部にして、北は有田郡に接し、  
 南は西牟婁郡に連あり、東は、大和國吉野郡、十津  
 川と相界し、西を海に面し、全郡村浦の數一百六  
 十五にして、人口八萬七千餘あり。



郡の北部有田郡の境界にも、西に鹿ヶ瀬山あり、東に白馬城ヶ森護摩壇の諸山あり、其南部西牟婁の境界にも、虎ヶ峰、笠塔峰あり、又其東部大和の境界にも、鉾ヶ嶽等の峻峯あり、三面共に山嶽を以て繞圍せし。和田の嶺も、郡の東南隅に在り、大和國及び西牟婁郡の境界をなせる高峯あり。郡の中央に清冷嶺あり、其西に矢筈嶽あり、共に郡中の高嶺とせし。

河流

日高川も源を本郡の東隅龍神村の山中に發し、蜿蜒々屈折して西流し、遂に郡中を貫きて海に注

く、其間激湍頗る多く、其最も甚しきものも、殆ど瀑布の如き觀あり、故に日高川五瀧の稱あり。河流全く四十餘里の間、舟楫を通せる所も、僅に末流七里に過ぎず。切目川も源を郡の中央に發し、西北に流れて海に朝し、南部川も郡の南部ふる清川村に發源し、殆ど切目川と相平行して、同く海に入る、共に運輸の便に乏しと雖も、灌漑の利少からず。

地勢

本郡の地勢も、別れて三大溪とある、一を日高の溪とし、二を切目の溪とし、三を南部の溪とせし、其



田圃の廣潤にして沃饒あるを、日高の溪を以て第一とす。

由良港

白馬の山脈より聯あり、郡の西北より海に走りて、南北に分れ、二岬をおも、其北岬を白崎と云ひ、其南岬を日御崎と云ふ、此中間に由良の港あり、巨灣水深くして、大船を碇泊せしむる良港あり。小浦、崎其間に出づ、海驢嶋を白崎の尖頭に在り。日御崎を、岩石突兀として、海中に出ること三十餘町、海面を抜くこと三十五丈餘、御崎の神社此上に在り。

日御崎

菌浦

御坊村

日御崎より海邊に沿ひ、東方九三里を隔て、菌浦あり、日高郡役所を置くる。御坊村を其東に接し、郡中最も人口稠密の處あり、此地和歌山を距ること大約十六里、熊野街道の一驛にして、御坊警察署此に在り。御坊より海邊に沿ふて、

日御崎圖





印南浦 南部驛

東南三里の地に印南浦あり、又其東南三里の地を南部と云ふ、則ち南部川の海口に在り、俱に熊野街道の驛路に當れり。切目崎及び目津崎も、此二驛の間に在りて、海中に突出也。

龍神

郡の東部を山路と云ふ、日高川の上流に沿ふて、村落をふせ、龍神も川源に在る一村にして、温泉を以て其名を得たり、僻遠の山間ありと雖も、浴客常々多し。和歌山より那賀郡を経て、此地に通る街道あり、之れを龍神街道と云ふ。龍神の下流安井、柳瀬二村の間に、檜皮の瀧あり、日高川

檜皮滝

五瀧の一にして、岸迫り石荒れ、水聲雷の如く、飛沫雪を欺けり。

古刹

郡の西北海灣に瀕する地を由良と云ふ、元來海部郡の一部ありし、明治十二年、郡區編制の際、本郡に編入されたる所あり、興國寺此に在り。又御坊の東北一里ある鐘巻村に、道成寺あり、與に郡中最も有名なる古刹と也。

産物

本郡の産物中、其多額を占むるも、山路の木炭、木材、茶等にして、紙も藤井村、嶋村に産し、檜笠も龍神村及び其近傍諸村より産出也、其他海草及び



概説

魚類、海濱各地の産物たり。  
 日高郡と縣の中部に在りて、有田、西牟婁二郡の間に横たり、東と大和の十津川に接し、西と海に面し、日高川を郡中を曲流せと雖とも、激流頗る多くして、舟楫の便に乏し、全郡分れて三溪とある、日高の溪は土地最も廣濶にして沃饒あり、郡中有名の古刹と、興國寺及び道成寺とを、郡役所と園浦に、警察署と御坊村に在り、産物は、木炭及び木材を最とし、海濱の地は海草、魚類を捕採す。

西牟婁郡

第八 西牟婁郡

位置  
 境界  
 村浦數  
 人口  
 沿革

西牟婁郡は、縣の南部に在り、西北と、日高郡に接し、東と、東牟婁郡に隣り、東北隅と、大和國吉野郡に界し、西南の一面と海に對し、全郡村浦の數一百三十九あり、外に田邊の市街十三町あり、人口凡そ八万五千餘あり。  
 本郡と、元と東牟婁郡及び其東北に延長して三重縣の管轄に屬する南北牟婁郡と合して一郡をなし、單に牟婁郡と稱せしをのふして、又之れ



を熊野と云へり、郡區編制の時之を分割して四郡とあま、本郡も其最西に位を以て、西牟婁郡の稱を得たり。

山岳

郡中殆ど皆山にして、平坦の地に乏しく、日高の境にも、虎ヶ峯、笠塔峯あり。東牟婁の境にも、大塔峯あり、則ち縣内第一の高峰ふして、遙に連山の上に出出、其山勢遠く大和より聯亘し、蟠根十里の外に跨り、殆ど本郡及び東牟婁郡諸山の根抵をあせり。三日の森法師ヶ峰、半佐嶺及び嶽山等も、皆其西方に在りて、本郡諸山中の著しきを

河流

のとま。

郡に數流の川あり、其最も大なるを安宅川にして、其源を日高郡の境界より發し、本郡近露村に至りて、近露川とあり、南流して合川村に至り、將軍川、前川、熊野川、下川の四小流を合せ、西南に流れて日置浦に至り、遂に海に朝せ、因て其海口を日置川と稱す。安宅川の西北に富田川あり、其水源も、郡の北方、大和の境ある安堵ヶ峰より發し、諸山の間を屈折して、栗栖川驛に至り、二條の小流を合せて、西南に流れ、更に數多の溪流を合せ、



南流して中村に至り、遂に海に入る。安宅川も未  
流四五里の間、稍水運の便ありと雖とも、富田川  
を舟楫の通る所、僅に下流一二里に過ぎ、二  
川俱に其上流は、激湍急流ふして、唯木材を流下  
せしむるの便あるのみ。

富田川の西に當りて、秋津、芳養の二川あり、俱に  
小流ふして、舟楫の便あり、秋津川も郡の北部あ  
る秋津川村の山中に發源し、南流して三栖川に  
會し、西流して田邊の灣に注く。

田邊灣

田邊の灣は、郡の西部に在り、且高の郡界を距る

田邊市街

こと一里餘、瀬戸岬其南を擁し、灣内數多の小港  
あり、皆碇泊の良所なり、其灣頭に田邊の市街あ  
り、秋津川の下流に跨り、大橋小橋の二橋を架せ、  
東西六町、南北四町餘、市街十三町あり、則ち舊田  
邊藩の城下にして、城址今尚も海口に存せり。此  
地和歌山を距ること、大約二十四里に在り、戸口  
繁殖して、商業盛に行われ、實に縣内第二の都邑  
にして、西牟婁郡役所及び田邊警察署此に在り、  
又始審裁判所支廳治安裁判所を置かる。縣社鬮  
鶏社も市街の東端に在り。



瀬戸鉛山村

田邊の南方、海灣を隔て、一村あり、瀬戸鉛山村と云ふ、其西部を則ち瀬戸岬にして、岬の南に温泉あり、湯崎の温泉と稱す、泉質善良にして風景絶佳あるを以て、四方より來浴せるもの亦少からず。

田邊より東牟婁に通ず

湯崎温泉圖



中邊地

る官道別れて二とある。其一も、道を東北の山間に取り、上三栖、栗栖川、近露の三驛を経て、本官に達せるものにして、之を中邊地と云ふ。潮見十丈、大坂の諸山、其間に延亘し、阪路頗る険峻あり。其二も、道を東南の海邊に取り、高瀬、安居、周參見、江住、田並の諸驛を経て、古座に達せるものにして、

大邊地

之を大邊地と云ふ。道路中邊地に比せられ、稍平坦ありと雖とも、其間富田馬轉、長柄等の阪路ありて、行客頗る困む。蓋し此二通路も、大塔峰の連脈を其中間に隔て、天然の地勢に依て、分界をな



せるものにして、中邊地も、山路を通りて、大塔峰の西より北ふ回り、大邊地も、海濱に沿ひて、大塔峰の南より東に出るあり。

中邊地の諸驛も、皆山間に在るを以て、四方交通の便に乏しく、概ね僻邑たるを免かれずと雖も、大邊地の諸驛も、安居の外、皆碇泊の地にして、海運の便を得たり、其最も繁盛あるも、周参見浦とを、周参見の西九三里に日置浦あり、安宅川の海口にして、又本郡の一良港あり。

申本浦

申本浦も、郡の東南隅に在り、大邊地の驛路に接

周参見浦

近したる一村にして、東牟婁郡の大島と、海峡を隔て、相對し、申本の西に二色の港あり、海灣深く、陸地に曲入して、宛も囊の如し、故に又袋の港と云ふ、海波常に静あり。

汐岬

汐岬も、申本の南に在り、海中に突出せること、殆ど二里に及ぶ、實に南海の一大岬にして、之を本縣の南端と云ふ、怒濤洶湧して、潮流屢々上下し、航海險悪の海路ありとを、岬頭に、第一等不動白色の燈臺を置き、以て航客の方針を示せり。

本郡の南海岸も、則ち縣の最南にして、山海相迫



り、岬灣交錯を、又大小數十の嶋嶼あり、其近海に散在也。

産物

郡中著名の産物も、田邊の葛粉、富田の砥石等にして、木材、木炭、猪皮、櫛實、及び松煙の類亦多額を産出し、沿海の地は、魚類、海草に富めり。

概説

西牟婁郡も、縣の南部に在り、西北も日高郡に接し、東も東牟婁郡に隣し、西南も海に面し、郡中殆ど皆山にして、平地稀あり、田邊を郡中第一の名邑にして、其繁華あること、和歌山に亞く、郡役所及び警察署此に在り、又裁判所を置

東牟婁郡

位置

東牟婁郡も、縣の東南部にいて、西牟婁郡の東に在り、北も大和國吉野郡に接し、東北も熊野川及

境界

かる、田邊より東牟婁郡に通ずる二道あり、一は山間にいて、中邊地と稱し、一は海岸にいて、大邊地と云ふ、俱に險阪ありて、行旅之る爲に艱む、産物も、田邊の葛粉、富田の砥石、及び木材、木炭等にして、沿海の地も多く、魚類、海草を産す。

第九 東牟婁郡



村浦  
入口数

北山川を以て、三重縣に属せる南牟婁郡と界し、東南を海に面せ、全郡の村浦一百七十ふして、外に新宮の一市街あり、人口殆ど六萬五千あり。

山岳

郡中亦殆ど皆山ふして、平坦の地に乏し、大和の境界にも野頭山及び果無越の連峯あり、西牟婁の境界にも大塔峯の諸山脈ありて、郡中に聯亘せ、妙法山大雲取及び那智山等も、郡中の高峰とす。

河流

熊野川も水源二あり、一は大和國吉野郡の山中に發し、本郡の西北部に入り、許多の細流を併せ

て本宮の東南を環流し、官井村に至りて、亦大和より來る所の北山川と會し、東南に流れ、新宮に至りて海に朝せ、依て其海口を新宮川と稱せ、其舟楫を通る所十數里に及び、運輸の便を得ること最も大あり。

熊野川の外に、三流の川ありて、郡の南部に流る、其熊野川の西南に流るゝを、那智川と云ふ、水源を那智山に發し、僅に四里許を通りて海に入る、水淺くして、舟楫を通せ、那智川の西南に流るゝを、太田川と云ふ、源を大雲取峰に發し、下里村



に至りて海に入る。更に其西南に流るゝを古座川と云ふ、水源三あり、佐本川、七川、小川、谷の三流を合せて一川とあり、古座に至りて海に入る古座太田の二川も、俱に末流數里の間、舟楫の便あり。

新宮

郡の東端に在りて熊野川に枕める一市街を新宮と云ふ、則ち舊新宮藩の城下にして、東西三町、南北九町、其繁華あること、田邊に伯仲也、縣社熊野速玉神社所在の地にして、新宮の名之に基く、東牟婁郡役所及び新宮警察署此に在り。

天満村

新宮より海岸に沿ひ、宇久井、佐野、三輪崎の諸村を経て、西南三里半を隔つる地を天満村と云ふ、則ち那智川の沿岸に在り、中邊地及び大邊地の分路に當れる一驛たり、其南に勝浦あり、碇泊の良地とせ。

中邊地も、天満より山路を西に取り、大邊地も海岸を西南に取る、田邊より新宮に至るの道程、中邊地に在ても二十七里、大邊地に在ても三十里許あり。

天満の正北殆と三里に那智山あり、中邊地の通



那智瀑布

路に當れる一峻嶺にして、那智の瀑布其半腹に懸り直下せること八十餘丈、瀉下の水勢恰も積雪の崩るゝ如し、實に海内無二の壯觀と云ふへし、那智川の水源也、此瀑布ありとて、山中に縣社熊野夫須美神社及び觀音堂有り俱に靈地の

那智瀑布圖



稱を得たり。

本官

天満を發して西北、那智の傍を過き、大雲取の險路を経て、上長井の驛に至り、更に小雲取の山路を履みて本官に達す、之れを中邊地とて本官を郡の西北部にして、中邊地諸驛中の大村あり、國幣中社熊野坐神社所在の地にして、本官の名之に基く、本官、新官、及び那智の三社を、熊野三山と稱し、古來遠國の老若、險地を跋渉して、此に賽するを、少からず。

本官より新官に至るにも、亦舟路熊野川を下る



九里八町の便あり、水程九里餘、俗に之を九里八町と稱む、水流奔駛、奇巖兩崖に亂立し、大小の瀑布、斷岸に懸り、風景頗る奇絶あり。

湯の峰も、本宮の南殆と一里に在り、温泉を以て其名を得たり。

大地村 天満驛の西沿海三里の地に浦神驛あり、此兩驛の間に在りて、海中に突出せる一村を、大地村と

も、岬角海中に出ること十八町、東南勝浦と相對して、一海灣を抱き、之を大地岬と云ふ。

古座浦 勝浦より更に西せること三里餘に古座浦あり、

本郡西端の一驛にして、西牟婁の郡界を距ること、半里に過ぎ、地勢古座川の海口に臨み、大に水運の便を得、商業盛なり、新宮に亞く所の小市たり。天満より浦神を経て、此に至るの間を大邊地と名む。

大嶋

古座浦の南方、一帯の海峡を隔て、大嶋あり、縣内島嶼の最大あるものにして、周回四里に餘り、大嶋須江、檜野の三浦に分劃せ、其大嶋浦も、西牟婁郡の串本と相對して海灣を擁せ、實に南海の一良港にして、内外諸國の船舶、此に繫泊して風



候を待つとの多し、檜野浦の岬角に燈臺あり、第一等旋轉白色の點火にして、光明十八海里を照す。

本郡も古昔稱する所の奥熊野にして、山水の奇を以て名を得たり、其海岸の形狀は、概ね西牟婁郡に同じく、唯岬灣の出入更に甚しく、嶋嶼の點綴一段の奇觀を添ゆるの差あるのみ。

郡中著名なる産物も、木炭及び木材の二種にして、熊野古座太田三川の沿岸諸村より産出せ、又近来官井日足の二村より採掘せる無烟石炭も、

産物

大に佳評を得たり、沿海の地も、漁業盛に行われ、殊に三輪崎大地古座の三浦に在ても、捕鯨の業最も盛にして、地方の富源をふす。

概説

東牟婁郡も縣の東南部にして、西牟婁郡の東に在り、北も大和に接し、東北も三重縣南牟婁郡を抱き、東南も海に面せ、郡中亦概ね山を阻つ、新宮も本郡第一の都邑にして、郡役所及び警察署此に在り、本宮古座も亦本郡の名邑にして、新宮と鼎足の勢を成せ、那智の瀑布も、海内無二の壯觀たり、其他山水の奇景頗る多



大社古刹も其名遠く聞ゆ産物も木炭木材  
及ひ石炭等にして沿海の地も漁業盛に行を  
れ捕鯨の権利亦莫大ありとす

総括

総括

和歌山縣を紀伊國の大部分を管轄し一區八郡  
に編制を東北の二部を陸地に接し西南の二部  
を海に面し全縣の人口凡そ六十一萬にして町  
數四百十四村浦の數一千二百零七に分る  
縣内第一の大河は紀の川にして水源を大和國  
人口  
町村數  
河流

地勢

吉野郡の山中に發し伊都那賀名草海部の四郡  
を貫通し西に流れて紀の海に入る河流の長さ  
凡そ二十三里舟楫の便最も大あり之れに亞く  
ものは熊野川にして安宅古座有田日高の四川  
又之に次く日高川も流通の長さこと縣内に冠  
たりと雖とも急湍激流多くして水運の便小乏  
し  
本縣の地勢も山嶽頗る多く紀の川に接近した  
る地も稍平坦ありと雖とも其他は平地最も寡  
く殊に東西牟婁の二郡も高峰峻嶺として行路



山岳

險峻を極む。大塔峰と二郡の境に屹立して、縣内第一の高峰と稱せらる。縣の北部大和河内の境界を、葛城の連峰綿延として、四郡其南に並列を。其他高野山生石峰龍門山和田嶺等も、縣内著名の山嶽あり。

氣候

氣候も沿海の地概ね温暖にして、氷雪を觀ることも少く、雖とも内部を地高く山秀るる故に、霜雪の季常に早くして、稍寒冷ふるを覺ゆ。

都邑

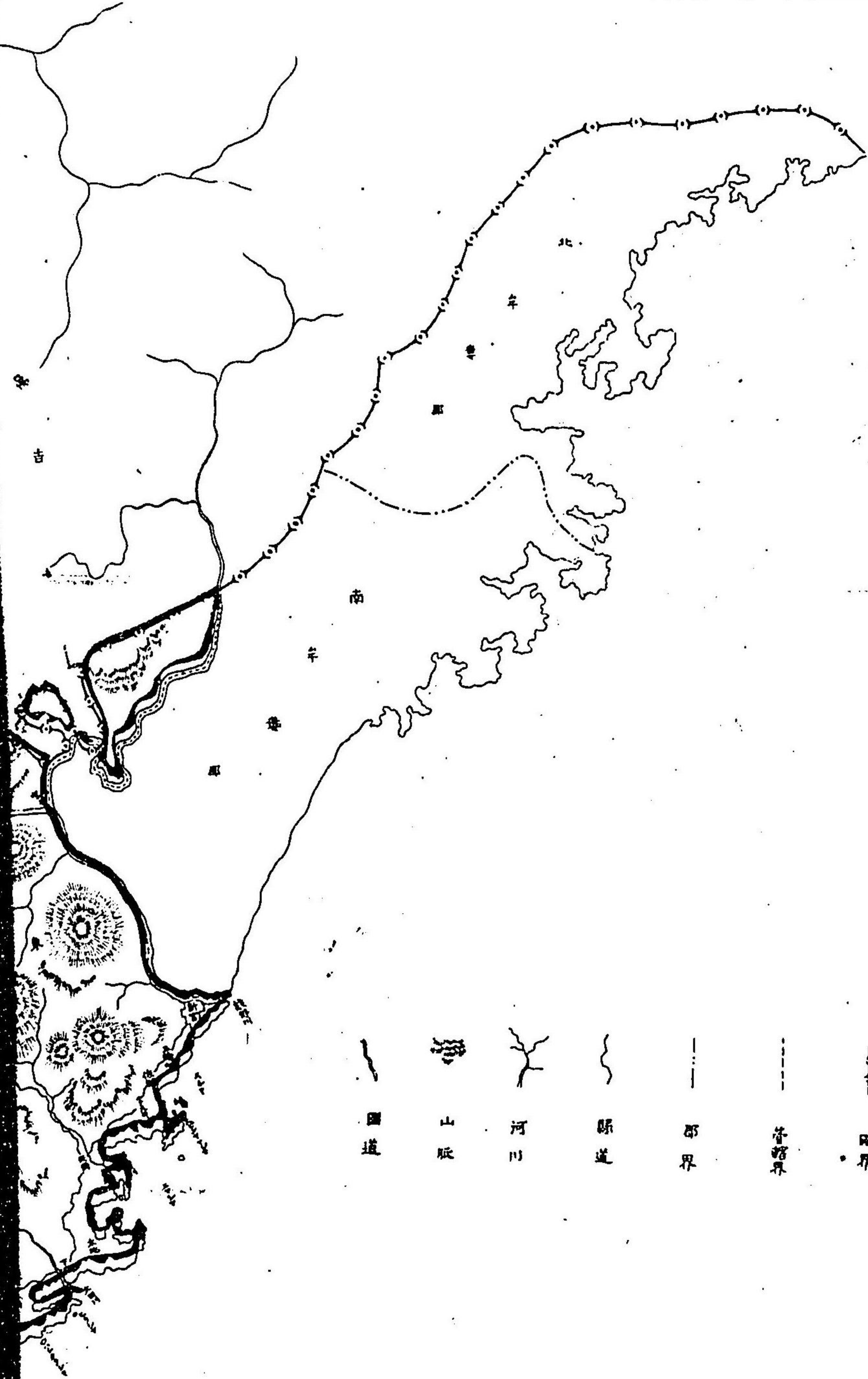
和歌山區を縣内第一の都邑にして、和歌山縣廳所在の地あり。西牟婁郡の田邊及び東牟婁郡の

産物

新宮も共に和歌山に亞ける名邑といはれ、其他名草郡の秋月那賀郡の岩手伊都郡の妙寺有田郡の湯淺日高郡の茵浦も皆郡役所所在の地あり。本縣の産物も、其種類頗る多く、其首位に在りて、輸出の盛ふるを以て、和歌山の綿フランネル熊野の木材有田の蜜柑及び黒江の漆器等とを。其他各郡皆特殊の産物あり、海部有田日高及び東西牟婁の五郡も、海岸に瀕するを以て、漁業盛行せし、海産物亦多きに居る、殊に東牟婁郡に在りては、捕鯨の業亦頗る盛ふりと云。



和歌山縣管內地圖



縣界  
 府界  
 管界  
 郡界  
 縣道  
 河川  
 山脈  
 圖說

成權所有

明治廿一年六月八日印  
 年六月十五日出版  
 年六月十五日訂正

校對者

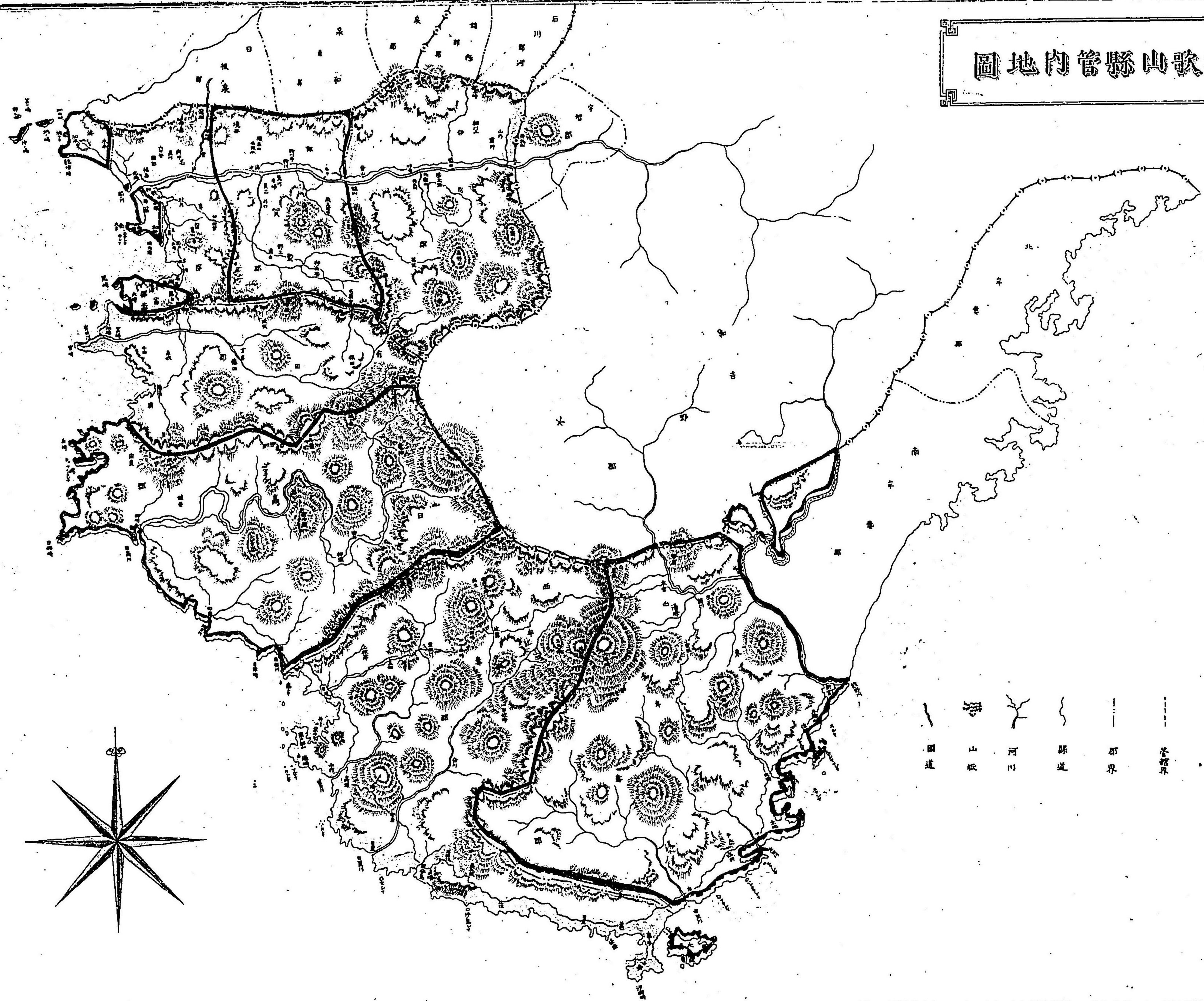
編譯者

發行所

和歌山縣管內地誌略終



和歌山縣管内地圖



版 權 所 有

編 者

發 行 者

和歌山縣

和歌山縣



明治廿一年六月八日印刷  
同年六月十二日出版  
同年十月五日訂正御届

定價金廿錢

校閱者

松山亮

和歌山縣和歌山區湊通北平早丸地

編述者

佐々木米三郎

和歌山縣和歌山區七番町二番地

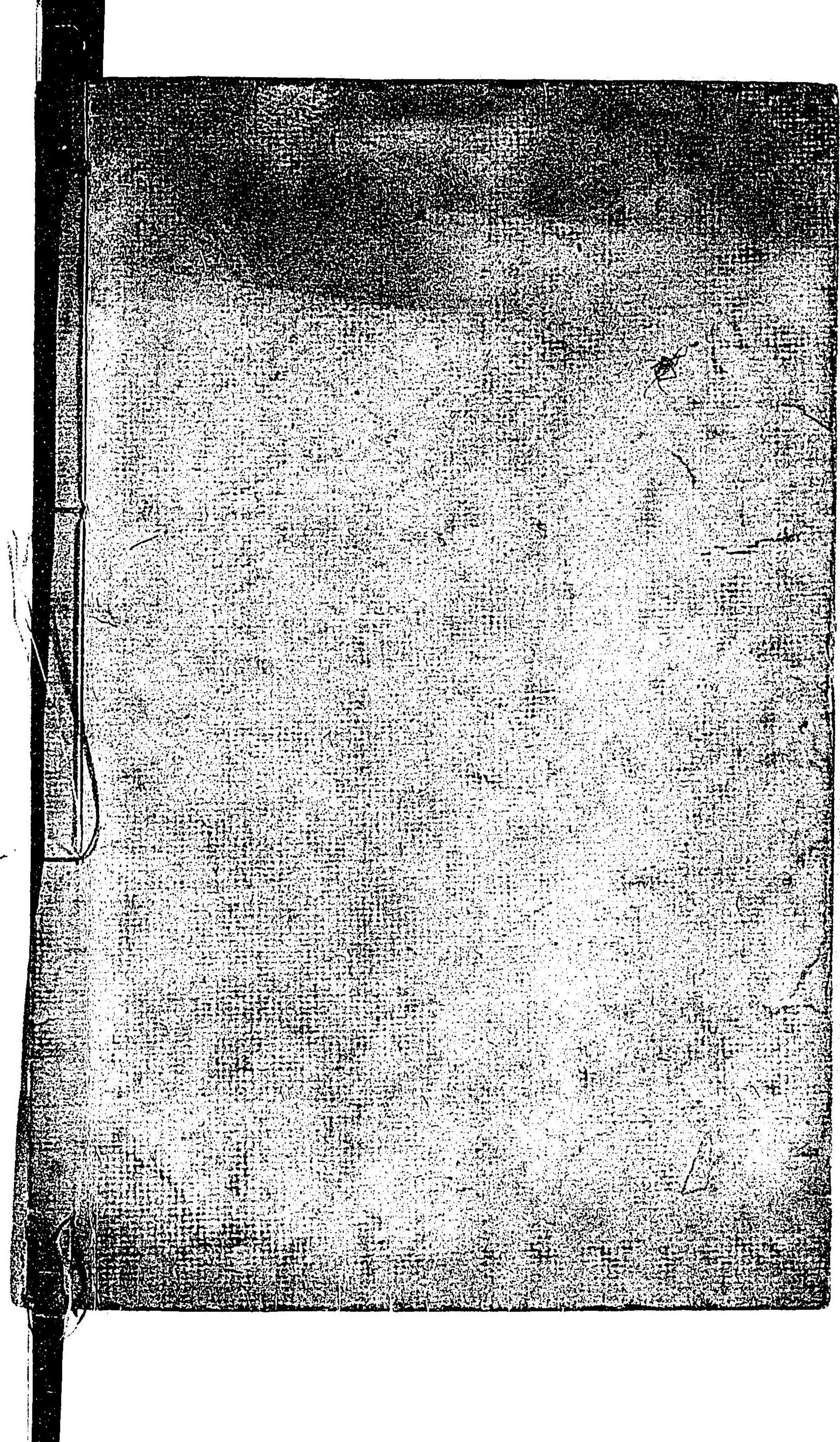
發行兼印刷者

平井文助

和歌山縣和歌山區本町二丁目廿番地

版權所有







特31

287

和歌山県管内地誌略  
松山 亮校閱  
佐々木米三郎編述 全

025721-000-5

特31-287

和歌山県管内地誌略

佐々木 米三郎 / 編

M21

ADC-3255

